

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名【新】国民文化祭・メディアアート展開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,338千円 (前年度予算額：0千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	8,338	0	0	0	0	0	0	0	8,338
決定額	8,338	0	0	0	0	0	0	0	8,338

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

『「清流の国ぎふ」文化祭2024』が開催されるにあたり、IAMAS学長が国民文化祭基本構想検討会議の委員となるなど、深く関与しているところであるが、その基本構想にうたう、「オンライン通信やデジタル映像等の活用といった様々なDX推進の取組みにより、文化芸術とデジタル化の融合を図りつつ、年齢、性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが参加できる新たな交流によって、人と人とのつながりや生きがいを生む点など、IAMASの理念である「科学的知性と芸術的感性の融合を通じて先端的な芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやモノづくりのあり方などを社会に提案する」ことに深く重なるものがある。

このことから、IAMASならではの発信をすべく、「DX時代のメディア表現～新しい日常から芸術を思考する」(仮)を実施するものである。

(2) 事業内容

・『DX時代のメディア表現～新しい日常から芸術を思考する』(仮)という展覧会を実施する。

・具体的には、世界的メディア・アーティスト藤幡正樹(元東京藝術大学・慶應義塾大学教授)の代表作『Light on the Net』の再制作作品を中心に、11月の展覧会とトークセッションを主体とした構成で実施する。

・DX時代を四半世紀以上先取りした作品の再制作と展示を通じて、芸術と情報科学を先導する岐阜県をアピールしていく。

・併せて、メディア芸術をめぐる温故知新の精神を尊重し、コロナ禍以後の人類へのメッセージとして、芸術作品を通じた問題提起を図る。

・また、トークセッションを通じて、芸術とメディア技術の接点を深め、メディア表現学の意義を議論し、研究情報としてのアーカイブ化を図っていく。

会 期： 令和6年11月1日（金）～7日（木） 予定
展 示： 藤幡正樹『Light on the Net』ほか7名の作家による作品
会 場： ソフトピアジャパンセンター

(3) 県負担・補助率の考え方
県 10/10

(4) 類似事業の有無
なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	5,510	作者謝金・制作費等
旅費	517	作者旅費、業務旅費
消耗品費	250	
印刷製本費	240	フライヤーの印刷
郵送料	50	フライヤーの送付
保険料	30	保険料（イベント保険）
委託料	1,741	会場設営・管理・撤収費、ウェブデザイン
合計	8,338	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」文化祭2024の関連事業として実施
(国民文化祭等基本構想検討会議の委員である、IAMAS学長 鈴木宣也 提案事業)

(2) 後年度の財政負担

令和6年度の国民文化祭以後はなし

(3) 事業主体及びその妥当性

学術色が強い事業であり、また再制作の作品権利者である、藤幡正樹氏（元東京藝術大学・慶應義塾大学教授）との関係性から、IAMASにて実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

清流の国ぎふ文化祭2024において、県事業として『DX時代のメディア表現～新しい日常から、芸術を思考する』（仮）をテーマにしたメディアアート展を開催し、これからの社会を豊かにする価値観を発信することを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

単年度のメディアアート展開催のための事業であり、継続的な指標を設定することは適切ではない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価)	—
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	—
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価)	—

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>
—

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 国文祭事業であるため、メディアアート展としては次年度以降は開催しないが、その成果を I AMAS の研究・教育に反映させていく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	